“秋といえば”

園長　髙杉　洋史

秋という言葉から思い浮かべることは、運動会の日の昼食時に食べた、まだ緑色をした蜜柑をむいたときの香りです。何歳の時の運動会なのか覚えていないのに、蜜柑の香りのことだけ新鮮によみがえります。

次に思い出すのが栗です。高校一年の時、栗の林というか山を所有している家の友達が栗拾いに誘ってくれました。泊まりがけでお邪魔して初めての栗拾いを経験しました。長靴でイガを開いて栗を出す技術が身についているのはその友達のおかげです。栗拾いも面白かったのですが今から50年前のかなりの山の中というか過疎地の農家で、人家もほとんどなく、なかなか素晴らしいロケーションでした。母屋に隣接して馬小屋があり、間近に馬と接するのも初めてでした。突然馬の顔が現れ、目が大きいことにびっくりしました。まつ毛も長いこと。その時の経験から年長さんの誕生日のバースデイ乗馬の新鮮な気持ちや話してくれることに共感できます。

もう一つ秋で思い出すのは幼稚園の頃か小学生低学年のころ松茸を取りに家族で山に入ったことです。母の実家がこれまた山奥の農家で、50年前は松茸が生えていたのです。そのころは今ほど希少でもなくたくさん収穫した覚えがあります。こうしてみると食べ物の話ばかりで恐縮です。私にとって秋といえば食欲の秋なのです。小さいころの印象的な体験というものは50年、60年経っても鮮明に思い出すものです。また美しくなるものです。

私たち幼稚園の教職員も子どもたちの幼稚園時代の暖かい思い出になる保育をたくさんしようと思いいます。コロナウイス感染でお出かけがしにくい今こそ幼稚園の真価が問われる時です。まずは運動会に向けて先生たちも張り切っています。そういえばオクテの私は運動会始め幼稚園時代のことはちっとも覚えていません。私の世代の幼稚園は一年間でした。かわいがってくれた先生方すみません。本園の教諭の多くは自分の幼稚園時代の担任にあこがれて幼稚園教諭になった方が多いので、きっと今の子どもたちは楽しい幼稚園の経験を積み重ねてくれることと思います。